

本と出合う楽しみ

小川 八郎（高校副校長）

私が本を読む楽しみを知ったのは、ようやく高校生になってからだ。国語の教科書に出ていた教材に惹かれたのと、当時の国語の先生の導きのおかげであったと思う。他人の文章を読むということは、自分の経験を頼りとし、さらに想像力を働かせ思考しなければならぬ。それでも理解できないことも多々ある。また、自分はそう思えないということもある。それでも、とにかく、作者は何を言いたいのか、時間をかけて自分なりに考える。時代背景を調べたり、その作者の他の作品を読んでみたりすることもあった。そうやって少しずつ文章を読むという経験ができて楽しかった。

高校二年生になると、「倫理」という科目があつて、有名な哲学者について学んだ。私自身も、自己を見つめて自分の存在や生き方について考えたり、世界の成り立ちや価値観について思いをめぐらしたりした。そういう年頃であつたので、過去の偉大な哲学者の考え方を知らなくて驚いた。だから自然に図書館に行き、哲学書や宗教書などを手に取った。難しいことはわからなかったし、独りよがりな解釈も多々あつたと思うけれども、本を読み、考える、そして疑問が生まると、それを解決してくれそうな本を探しに図書館へ行くという日も増えた。

高校二年次は、文理選択の時期だった。進路に迷っていた私は、どういう理由からかはっきりと説明できないが、トルストイの「戦争と平和」を買い込み、冬休みを利用して一気に読んだ記憶がある。その経験以来、迷いがあると、何か本を探しに行くようになったし、あまり苦痛を感じることなく長編小説が読めるようになった。

ドストエフスキーの「カラマゾフの兄弟」と出合ったのは、大学生の時だった。あまりの衝撃で、読んだ後も落ち着かなかった。私の手に

はおえない深さを感じた。そして、教員になってから数年後に読み直してみた。学生の時よりも気づくことも多く、より深く考えさせられたように思う。もう一度、年齢を重ねてから読むべきだとその時感じた。年齢を重ねた今もその時の思いはそのまま残っているが、いまだに果たしていない。

自分自身の経験には限界があるけれども、本の中に描かれた世界には、現実には経験できない世界がある。心ときめき、大きな感動を与えてくれる物語もある。また、本に書かれた一文から、思いがけず目から鱗が落ちることもある。それこそ読書の醍醐味であらう。

教員になって、読んだ本を生徒に紹介することが何度かあった。比較的最近紹介した本をあげると、「後世への最大遺物」（内村鑑三著）、「論語物語」（下村湖人著）、「わかりあえないことからーコミュニケーション能力とは何か」（平田オリザ著）、「ひとはなぜ戦争をするのか」（アインシュタイン、フロイト著）、「僕たちが何者でもなかった頃の話をしよう」（山中伸弥、羽生善治、是枝裕和、山極壽一、永田和宏）などがある。話したり書いたりする機会に、その時々テーマにふさわしい本が見つかるとうれしくなる。本と関連付けることにより、内容にもふくらみがでるし、伝えたいことが整理できる。これも私にとっての読書の有用性の一つである。

現代社会は、国や地域の境界を超えて資本や情報などが行き交うグローバル化した社会であり、科学技術の進展は私たちの想像をはるかに超えていくように感じる。生活様式は多様に変化し、様々な倫理問題は生みだしている。そんな中、私は本を通して、作者の描く物語に触発されたり、ものの見方や考え方を学んだりして、「いかにあるべきか」という問いに向き合う時間をもつことがとても重要だと考えている。また、読書により日常から解放され、リフレッシュできることも多い。そして、偶然出合った本から、心洗われるほどの感動が得られたとしたら、なんとすばらしいことだろう。私はいつもそんな期待をもって、本との出会いを楽しみにしている。

本との出会い

大島 みづき（高校国語科）

私は本が好きです。小学生のころは友人と図書室に行つて毎日のように本を借りていました。小学校には月に一回移動図書館が来ていたので、普段見られない本にわくわくすることもありました。表紙やタイトルで本を選ぶことが多かったのですが、実を言うと内容がよくわからない時もありました。それでも、自分にとって本は新しい知識を与えてくれるもの、無限の世界に連れて行ってくれるものでした。中学生になつても、小学生のころほどではありませんが、本はよく読んでいました。いわゆるライトノベルが盛り上がりついで、友人から借りることもありました。高校生・大学生になると、次第に図書室は「本を読むところ」というよりは「勉強するところ」に変わりました。読書もするものの、冊数は減り、当時夢中になつていた「守り人」シリーズで有名な上橋菜穂子作品や、レポートに必要な勉強に関する文献ばかり読んでいました。

この瑞穂高校に来て、初めて図書館に行つた時のことは、今でも覚えています。（そんなに年数が経っていないので当然かもしれませんが）話題になったハードカバー、かわいらしい動物や美しい風景の写真集などなど、久しぶりにたくさんさんのジャンルをじっくりと見て回りました。私は本屋さんに行つても自分が見たいジャンルのスペースしか見ないので、とても心躍りました。では、図書館で出会った本を（シリーズものですが）いくつか紹介します。

一つ目は、レイチェル・ウェルズ作・中西和美訳『通い猫アルフィー』シリーズです。この本は出入口近くの文庫本コーナーを眺めていた時に見つけました。今まで海外作品はほとんど読んでいなかったのですが、表紙の猫のイラストを見て、猫好きな私は思わず手に取ってしまいました。飼主を亡くした猫のアルフィーが、いろんな家を行き来する「通い猫」として生き、たくさんの人を幸せにしていく物語です。猫ならではの自由さにも感動もあり、読んだ後にほっと暖かい気持ちになります。

二つ目は、阿部智里作『八咫鳥』シリーズです。この本も表紙に一目惚れをして借りたのがきっかけで、平安時代の日本のような世界観の和風ファンタジーです。登場する人々は鳥に人にと姿を転じ、空を翔ることもできます。少し不思議で雅やかな世界で繰り広げられる謎、帝とも言うべき「金鳥（きんう）」の座を巡る陰謀、そして衝撃のラストにも注目です。

その他にも、村山早紀作『その本の物語』、小野不由美作『十二国記』シリーズ、百田尚樹作『カエルの楽園』、小河俊哉著『空の辞典』（美しい空の写真集です）など、挙げればきりがありません。本当にどの本も素敵な世界に連れて行ってくれます。

ここまででは久しぶりに夢中になつて読書のお話でしたが、ここからは少しだけ、読書から始まつた新しい趣味、編み物のお話です。昔から興味はあつたのですが、図書館で本を見つけてから本格的にやり始めました。最近はネット上にもたくさん編み図（作り方のこと）が無料で掲載されているのですが、シンプルなものが多いので本でも探すようになりました。時間を見つけては少しずつ編んでいき、完成した時は達成感があります。ぐつと集中するので、気分転換にもなり楽しんでやっています。色々なところに本との出会いがあります。一冊の本がきっかけで皆さんの人生が大きく変わることもあるかもしれません。本はあなたの新しい扉を開く鍵です。いつも新しいスマートフォンに伸ばしてしまふその手を、今日は本に伸ばしてみませんか？ 図書館でも、本屋さんでも、あなたの身近な場所に足を運んでみてください。きっと読みたい本が見つかります。それでは、ここまで読んでくださった皆さん、ありがとうございました。

図書館研修 in 安曇野ちひろ美術館

今年は、画家で絵本作家のいわさきちひろが生誕100年を迎える記念の年です。そこで図書館フェアで「いわさきちひろ」の企画展示を行いました。これにあたり、図書館員は長野県北安曇野郡にある「安曇野ちひろ美術館」へ研修に行きました。北アルプスの裾野にあり、とても自然豊かな場所でした。敷地内にも緑が多く、大きな花壇には色とりどりの花が咲いていました。美術館の横には安曇野ちひろ公園「トットちゃん広場」が併設されていて、たくさんの子どもの姿がありました。自然と子どもたちの風景は、いわさきちひろの作品の一場面を見ているようでした。



した人たちの遺品などの写真と、被爆した子どもたちを描いたいわさきちひろの作品（絵本『わたしがちいさかったときに』に収録）が展示されていました。

様々な展示を通し、いわさきちひろの子どもに対する愛情や、平和を願う気持ちなどに触れることができました。研修後に作品を見ると、優しいタッチの中に、「世界中の子どもみんなに平和としあわせを」という強い想いを感じようになりました。



入場券代わりのタブ。今は葉として使っています。



いわさきちひろについて…

1918年12月15日福井県に生まれる。その後、東京で育つ。幼少期から絵を好みデッサンや油絵を学ぶ。1945年26歳の時、東京の家を空襲で焼かれ母の実家の長野に疎開する。戦後は新聞のカット・挿絵などの仕事をする。1950年松本善明と結婚。翌年、長男・猛が誕生する。1956年37歳の時、初めての絵本『ひとりりでできるよ』を描く。この作品で「子どもが描ける画家」として評価が高まる。その後も、絵本や挿絵など数多くの作品を描く。1974年肝がんのため死去。享年55歳。現存する作品は約9,500点。

図書館クルーを紹介します

図書館には「図書館クルー」とよばれる学生アルバイトがいます。今年は大学生6名、短大生2名が図書館クルーとして働いています。貸出返却・書架整理・本の整備などが、主な仕事です。

本好きのクルーが多く、図書館に親しみを持ってくれています。またクルー同士の仲も良く、和気あいあいとした雰囲気です。

みんなで、より良い図書館作りを目指し頑張っています！！



前列左から：野村芽生さん、辻 菜摘さん、望月睦美さん、奥田瑠菜さん
後列左から：服部翔真さん、木下 龍さん、黒野竜大さん、津田雅弘さん